上村松園

上村松園（一八七五～一九四九）は、明治から昭和期にかけて活躍した京都画壇の代表的女流画家である。京都府画学校に入学して画の道に進んだ後、鈴木松年、幸野楳嶺、竹内栖鳳に師事し、歴史や風俗に取材した作品を多く発表して、内外の展覧会で活躍した。特に大正四年の第九回文展出品作「花がたみ」、大正七年第十二回同展出品作「焔」、昭和十一年の同展招待展出品作「序の舞」など、市中町方の女性の日常生活や、謡曲、王朝美人に題材を求めた美人画の力作で知られる。昭和十九年に帝室技芸員、昭和二十三年には女性としては初めて文化勲章を受章した。

この「雪月花」もまた、松園の代表作である。松園は、大正五年、文展会場へ貞明皇后が行啓の折、御前揮毫に「白拍子図」を描き、翌年の京都行啓の折には御前揮毫に「初音図」、さらに同七年の帝展会場行啓では御前揮毫に「紅葉狩」を描いた。この間に貞明皇后より画の御用命を受け、思案を重ね、幾度もの下絵制作を重ね、二十一年もの歳月をかけて完成したのが、古典文学を題材にしたこの「雪月花」三幅対であった。細緻な筆線と、明快な色彩による名作である。貞明皇后の御遺品として香淳皇后が引き継がれ、お側に置かれていた作品であった。

100 雪月花　昭和12年

87　香淳皇后と画伯たち

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

香淳皇后の御絵と画伯たち
三の丸尚蔵館展覧会図録No.43

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十九年三月二十七日発行

© 2007, The Museum of the Imperial Collections